

甲斐市立双葉西小学校 R3 自己評価書

令和4年 2月 8日 (火) 作成

校長 「 平塚 克人 」 記述者 職名 (教頭) 「 小宮山 昇 」

学校教育目標 「 とともに学び、ともに育つ 」

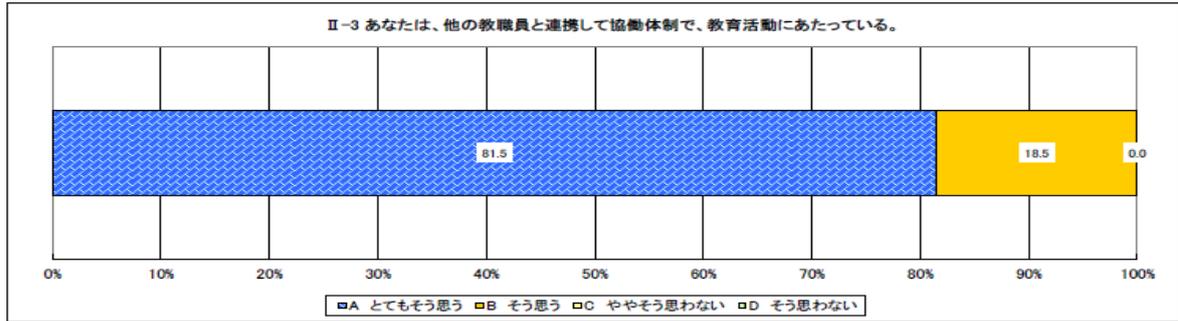
学校経営方針

- 1 学校教育目標「ともに学び とともに育つ」を常に意識し、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む
- 2 PDCAサイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する
- 3 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める
- 4 信頼される学校づくりの実現に努める

1 全体評価

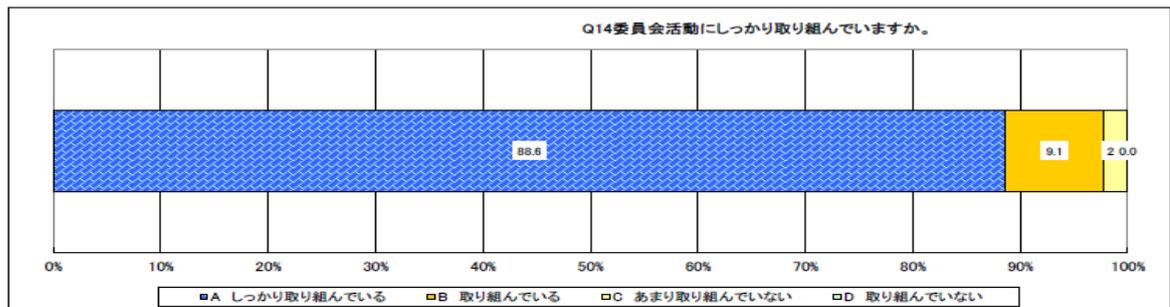
○教職員自己評価から

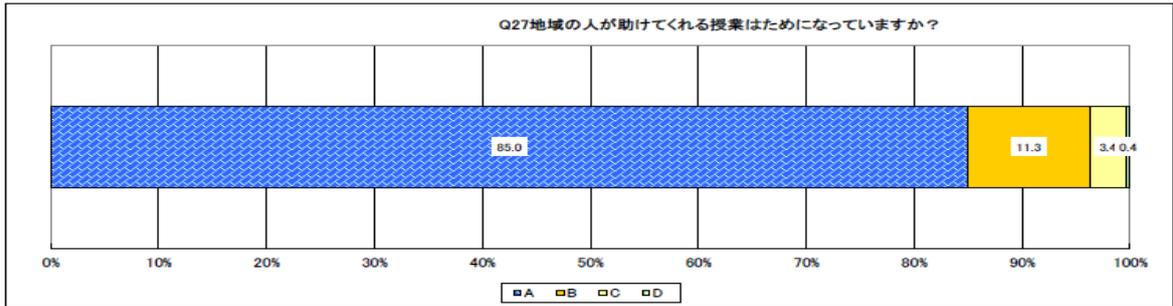
- ・肯定的な回答が34項目全てで90%を超えており、全ての項目が「達成できている」と評価できる。本校職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることが窺える。特にⅡ-3「学校の協働体制」は、A回答だけで81.5%となっており、本校の職員の強力なチーム学校体制が特長となって表れている。



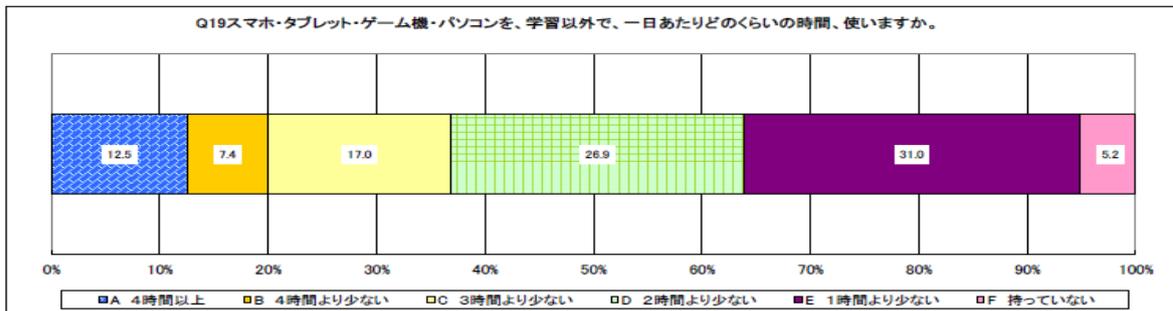
○児童アンケートから

- ・肯定的な回答（80%以上）が28項目中27項目あり、児童が充実した学校生活を送っていることが読み取れる。
- ・甲斐市全体の小学生アンケートと比べると、本校のA回答は1つを除き全て上回っている。本校の特長として、Q14「積極的な委員会活動」A回答88.6%、Q27「地域支援の授業の効果」A回答85.0%となっている。

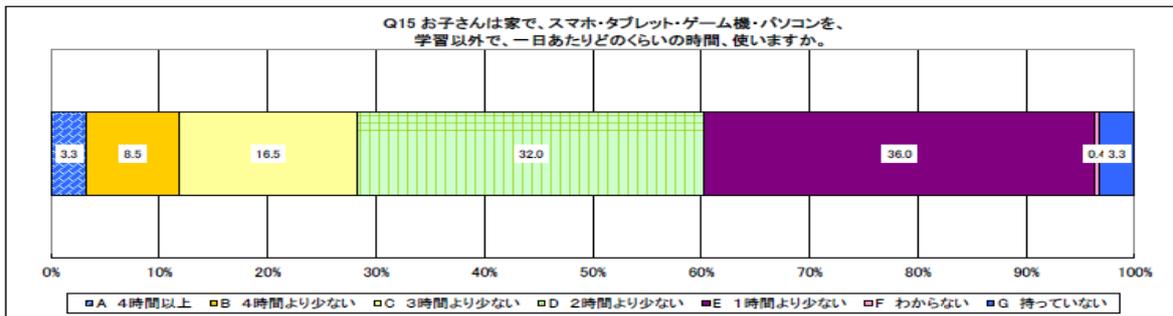




- ・時代を反映してか、Q19「学習以外のタブレット・スマホ・パソコンの使用」2時間以上が36.9%近いことに危惧を抱く。

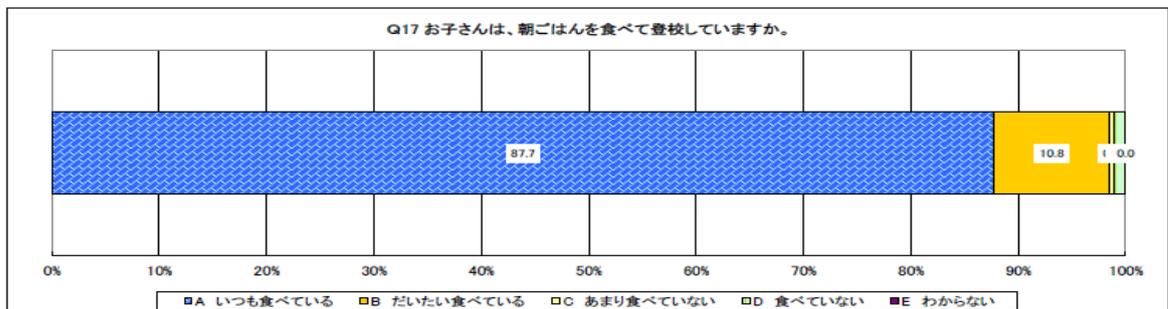


- ・ちなみに「保護者アンケート」でも以下のとおり。

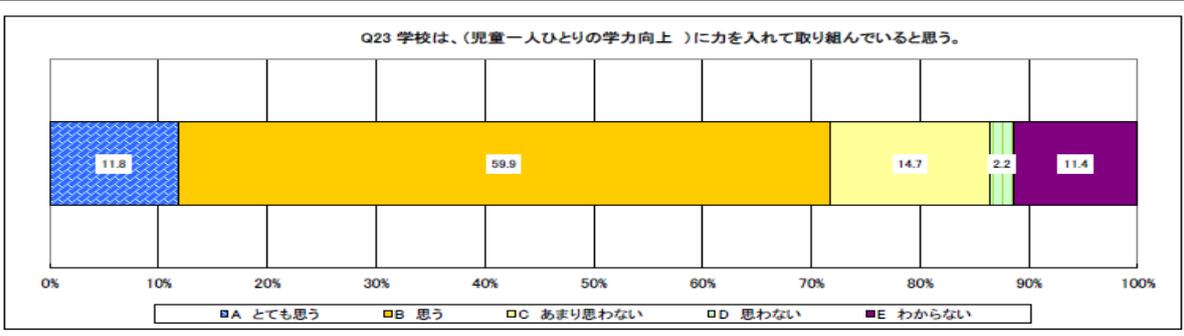


○保護者アンケートから

- ・Q17「朝ご飯を食べての登校」はA回答が87.7%となっており、規則正しい生活とともに、一日の始まりのエネルギーを蓄えて登校していることがわかる。



- Q23「学校の学力向上への認識」についてのA回答が11.8%であることは、教職員の本務への取組の警鐘だと考える（肯定的回答は70%を超えるが）。確かにコロナ禍にあり、授業参観や行事等が縮小され、保護者が直接児童の学習の場を見られないことが挙げられる。別の形で学校の学力向上への取組や成果を発信していく必要がある。

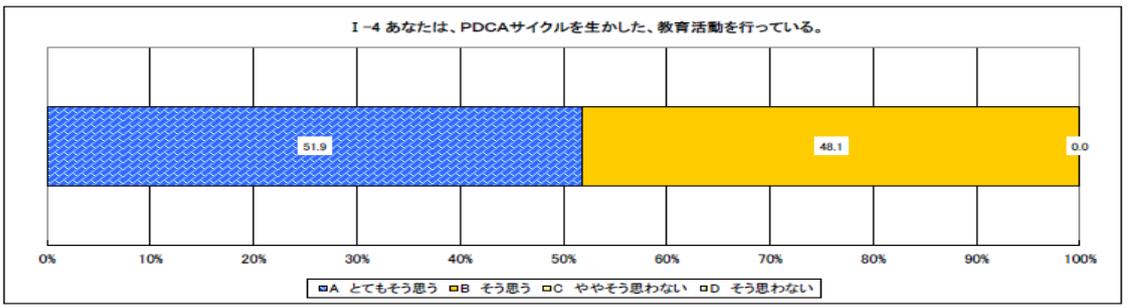


2 項目ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

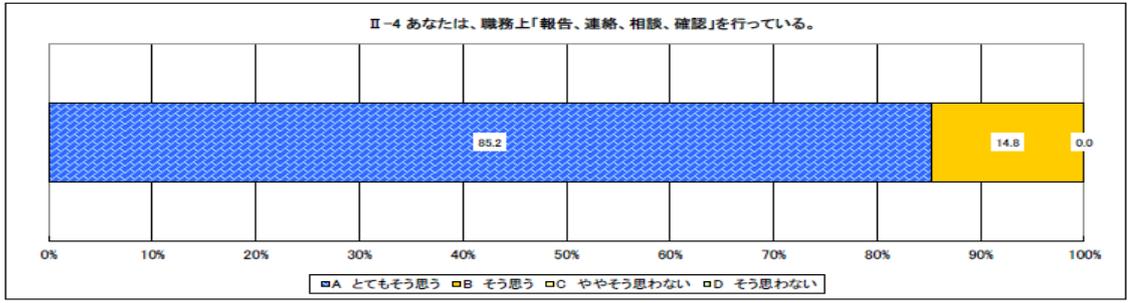
達成状況
4項目全てにおいて肯定的回答となっている。年間を通して全職員が共通理解のもと、一体となって教育活動を計画し、実施していることが窺える。

改善策
I-4「PDCAサイクルを生かした教育活動」においてはA回答が51.9%になっており、他の項目に比べて低い。行事においては次年度に活かせる反省を残し、教育活動においては、評価が自らの指導の反映だという意識を持ち、日々授業改善を図っていく。

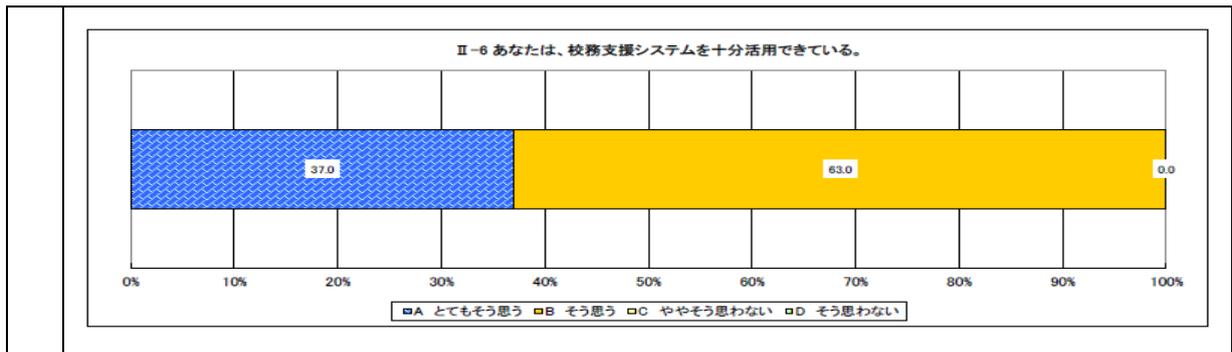


II 学校運営について (保護者用アンケート等も含めて)

達成状況
8項目全てにおいて肯定的回答となっている。特にII-4「職務上の報連相」については、A回答が85.2%を超えており、本校教職員が連携を取り合って学校運営に携わっていることが窺える。



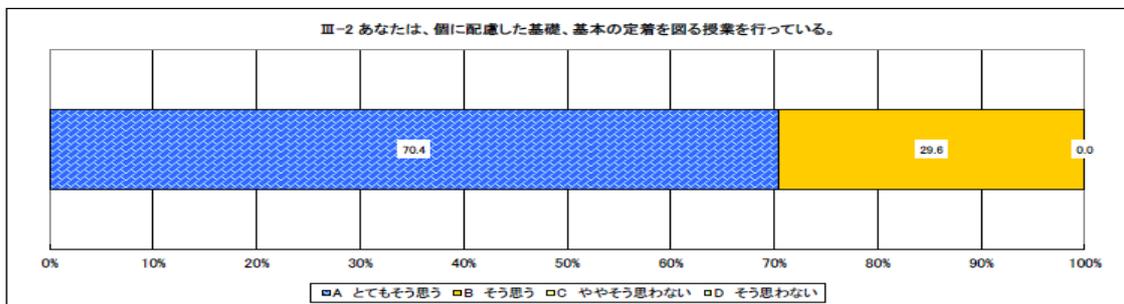
改善策
A回答のみ取り上げると、II-6「校務支援システムの活用」についてが最も低い。導入されて間もないこと、システムに改良すべき点があること等も理由に挙げられるが、校務支援システムの利点に目を向け、更に積極的に活用していく。



III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

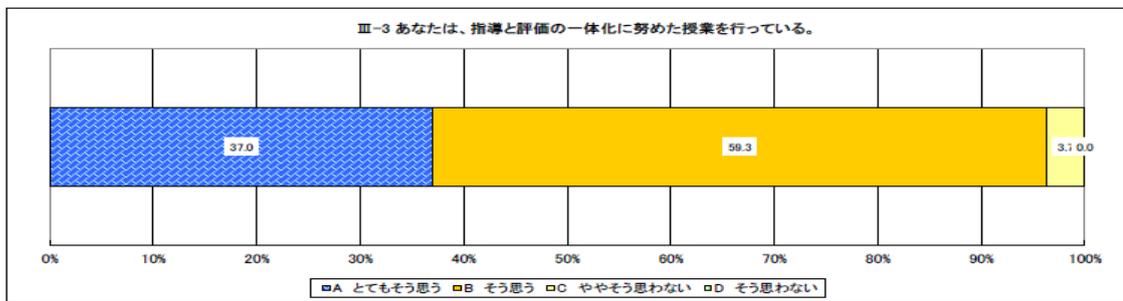
7項目全てにおいて肯定的回答となっている。特にIII-2「個に配慮した基礎・基本の定着」については、A回答だけで70%を超え、本校教職員が個別対応やわかりやすい授業に努めていたことが窺える。

達成状況



A回答のみ取り上げると、III-3「指導と評価の一体化」が最も低い。評価は指導の反映、評価は指導の鑑だという意識を持ち、良い点の継続、悪い点の改善に日々取り組んでいく。

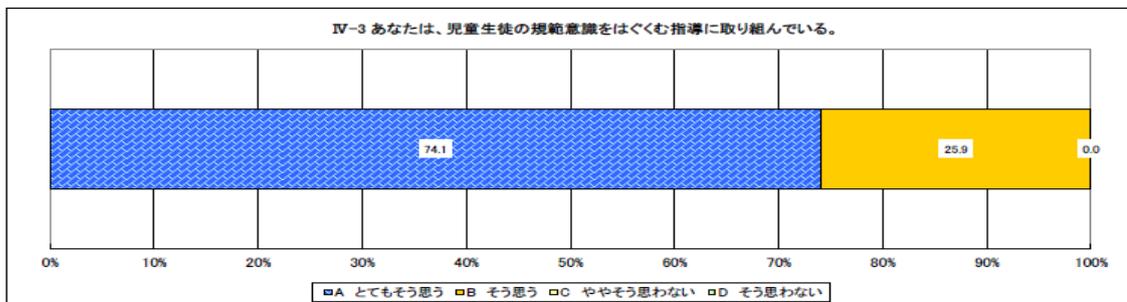
改善策



IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

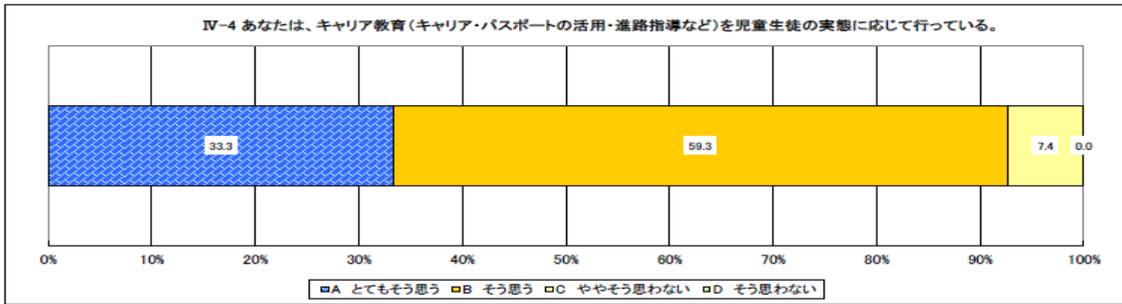
5項目全てにおいて肯定的回答となっている。特にIV-3「規範意識の指導」については、A回答だけで70%を超え、日常的な生徒指導に励んでいることが窺える。

達成状況



改善策

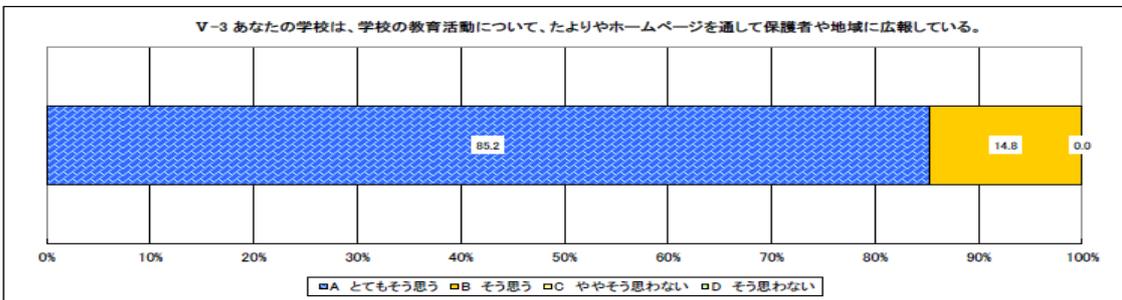
IV-4「キャリアパスポートの活用」については、学校として意識的に取り組む必要がある。直接の職業教育でなくとも、地域の人々の働き、社会の流通やしくみ等、また自身の活動等を振り返る場を任意に設けながら、児童のキャリア育成を促すよう仕組んでいく。



V 地域との連携について

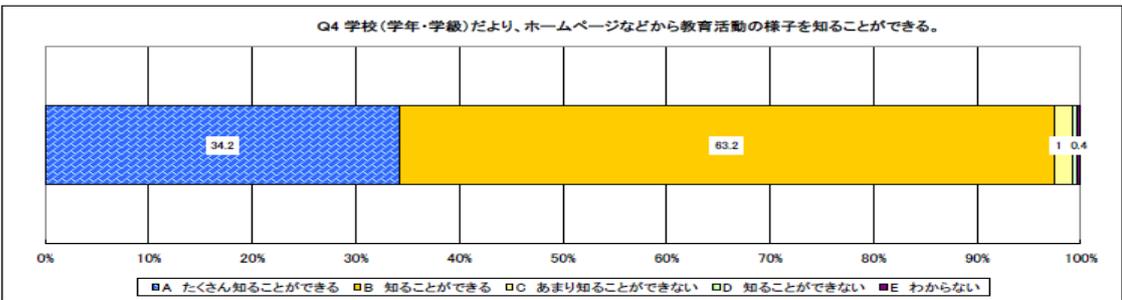
達成状況

5項目全てにおいて肯定的回答となっている。特にV-3「学校だよりやホームページでの広報」については、A回答だけで85%を超えており、地域や保護者への発信に努めていることが窺える。



改善策

一方、保護者アンケートのQ4「学校の様子や教育活動の広報」については、肯定的意見はありながらA回答が34.2%と、職員との差異が大きい。そのため、コロナ禍ではあるが教育活動を理解していただくために、授業参観以外にビデオ配信等、工夫した発信を行っていく。



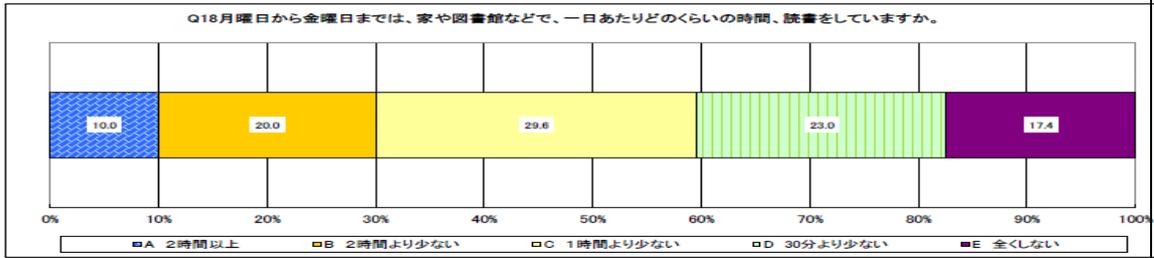
VI 学校の特色に関して

達成状況

2項目のどちらも肯定的回答となっている。読書活動、児童会活動のどちらにも励んでいることが窺える。

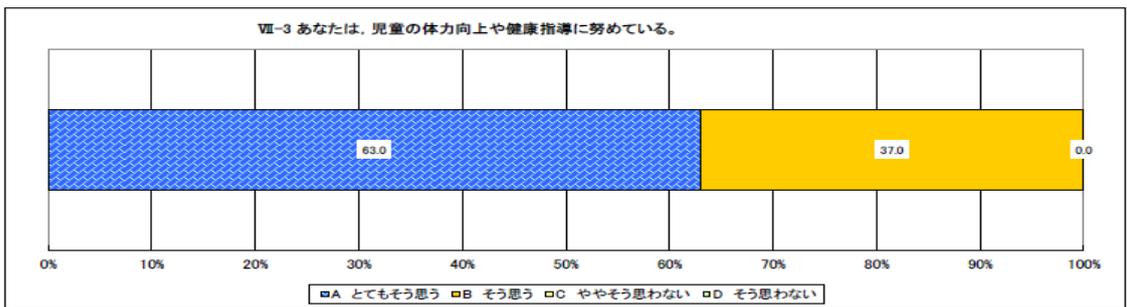
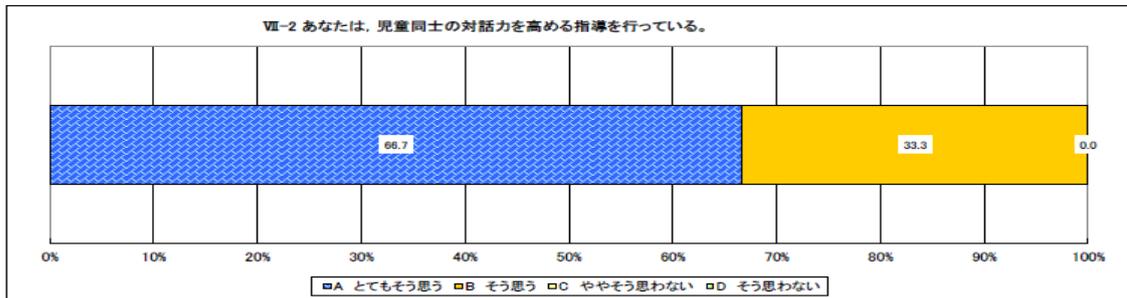
改善策

一方、児童アンケートQ18「読書時間」によると、児童の読書時間で「30分間より少ない」「全くしない」を合わせると、40パーセントにも及ぶ。学校では学校応援団や「ピッピの会」による読み聞かせ、親子読書、国語の学習と兼ね合わせた読書等、様々な工夫を行っている。スマホやゲームに時間が奪われていることは全国的な傾向だが、創造力を培う大切な活動としての読書を、家庭にも啓蒙していく。

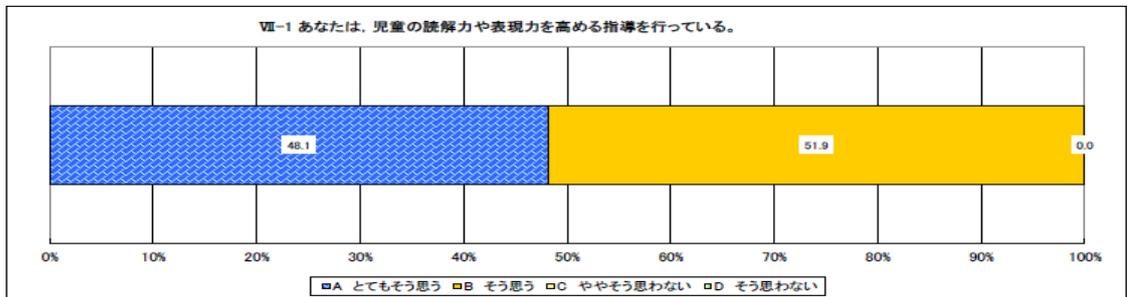


VII 創甲斐教育について

達成状況 3項目のどちらとも肯定的回答となっている。特に、IV-2「児童同士の対話力の指導」、IV-3「児童の体力向上・健康指導」に努めていることが窺える。



改善策 一方、Q1「児童の読解力・表現力を高める指導」は、他に比べてA回答が低い割合となっている。これらの力は今後育成すべき重要なコンピテンシーとなっている。そのため、次年度は、全ての教科等において「読解力・表現力を向上させる」重点的な指導を行っていく。



3 まとめ

<成 果>

- ・自己評価（教職員）全ての項目において否定的意見がなく肯定的意見に傾いたことで、教職員が日頃から高い課題意識を持って教育活動に努めており、学校教育目標に基づいた適切な学校運営がなされていることが窺える。次年度も自信を持って、活動や取り組みを引き継いでいきたい。

<課 題>

- ・コロナ禍、学校と保護者・地域との連携、学校の教育活動の発信等をどのように図っていくか、まさに現代の課題と言える。ICTの活用も考慮に入れ、新しいアイデアを募りながら、前例に捕らわれず新しい取り組みを進めていく。